

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		CASTRO JUAN JOSE	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学部科目:「構造力学I及び演習」、「土質力学及び演習」、「建築基礎構造」、「土質工学実験B」、「鉄骨構造」及び「建築防災工学」等を担当し、一級建築士の水準を満足するような講義を行う。昨年度の学習調査結果の分析を行い、講義内容を改善し、学生がよりよく理解できるようにする。演習等科目では大学院学生をTAとして採用し、大学院生自身の教育経験を指導しながら教育補助に活用する。 ・大学院科目:「防災と建物サステナビリティ特論」及び「防災設計特論」を担当し、留学生を含む大学院生を対象とした講義を行い、大学の国際化に務める。 ・学部生4年次指導教員としての務めをしっかりと果たす。 ・研究指導:理工学研究科大学院生の2名の研究指導を行う。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の講義アンケート結果は全科目を通して良好であった。また1年生の講義では時間外に特別講義を設け、理解度を高めるように努めた。 ・高学年の学部生を対象に、建築工事や建設材料プラントの見学を各1回行った。 ・5名の学部生の卒業研究を指導し、内2名がその研究成果を建築学会で発表することになった。また大学院生が国内学会において発表できるよう指導し、発表賞を受賞した。 ・4年次指導教員として企業情報を提供し、就職支援を行った。 		
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄総合事務局営繕課や沖縄県農林水産部森林管理課と連携し、「沖縄県における森林資源の建物構造部材への活用」の関連研究を継続する。 ・学外では建築学会「鉄筋コンクリート厚肉壁式構造設計指針(案)」に委員として参加する。 ・これまでの研究成果を建築学会等で発表を行い、科研費やその他の外部資金獲得を目指す。※外部資金獲得に向けた取組がある場合には必ず記載ください 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年4月の熊本地震後、島嶼防災センターの調査団の一員として被災地の調査を行い、その内容で審査付き論文を国際会議に投稿し、発表も行った。 ・建築学会九州支部の外部資金を獲得し、沖縄県の森林活用に向けて調査や材料試験を行い、その成果を次年度の建築学会発表大会で発表する。 ・他大学の研究者と共同で現在科研費を申請中及び高橋産業経済研究財団にも申請中である。 		
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA研修員(建築研究所)を対象とした「構造解析」の講義を担当し、発展途上国への技術協力の一環とした研修コースを通して国際貢献をする。 ・沖縄県内の企業と連携を取り、共同研究を行うように積極的に取り込む。 ・日本建築学会沖縄支所評議員として社会貢献をする。 ・沖縄県建築設計サポートセンター耐震診断判定委員会の耐震判定委員として責務を果たす。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA研修コースの科目を担当することにより国際社会に貢献した。 ・沖縄県建築設計サポートセンター耐震診断判定委員会の耐震判定委員として責務を果たすと同時に沖縄県耐震化促進支援会議の委員長を務めた。 ・建築学会の本部や九州支部の委員として委員会活動を行い、その責務を果たした。 		
管理 運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長および専攻主任として、各種委員会において積極的に参加し、その円滑な運営職に務める。 ・全学の国際交流推進専門委員会に積極的に参加し、大学間協定の拡大に務める。 			0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長及び専攻主任として、各種の委員会を出席し、組織の円滑なおかつ公正な学科運営に努めた。 ・アルゼンチン共和国のラプラタ国立大と交渉し、琉球大学との南米大学初の大学間協定を結ぶことができた。 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安藤 徹哉	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・部局の目標に適合した教育目標の設定 ・授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善 ・研究業績の授業への反映 ・進学指導、就職支援のための取り組み 		0.40	<p>・・・島嶼環境計画論、土木計画では、学生が情報を収集・分析し、それを評価する能力を高めるため、5回の小レポートを課した。また、土木設計製図では、エンジニアリングデザイン能力を高めるため、自由課題であるポケットパークの設計を課した。これらの授業を通して、年度目標を達成することができた。また、積極的に学生の就職支援(特に、二次試験の面接対策)を行ない、研究室の学生すべてが就職試験に合格した。</p>			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学会誌への投稿、発表 ・著書の出版準備 		0.30	<p>『A STUDY ON THE TRANSFORMATION OF HERAT OLD CITY』が掲載予定となった。日本建築学会計画系論文集 2017年5月 第82巻 第735号</p>			
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・学内外の審議会、委員会等への参画 		0.15	<p>・・・学外においては、国頭村庁舎位置選定委員会、北中城村景観計画策定委員かいなどに加わり、専門家としての意見を述べた。</p>			
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・学内各種委員としての貢献 		0.15	<p>・・・工学部代議会委員として代議会に参加するとともに、入試において面接委員として受験生の人物評価を行った。</p>			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		下里 哲弘	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目、専門選択必修科目、共通教育科目を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行う。 ・授業評価アンケート、授業改善報告書を活用した授業を行う。 ・大学院進学、民間就職、公務員希望学生の支援と指導を行う。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目・選択必修科目、共通教育科目を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行った。 ・H28年琉球大学プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞した。 ・授業評価アンケート、授業改善報告書を活用した授業を行った。 ・大学院3人、民間就職5人、公務員4人の進学決定を指導した。 ・博士後期学生3人の指導と1名の合格を輩出した。 			
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・大型の競争的外部資金を獲得し、社会貢献技術の研究を行う。 ・土木学会、日本鋼構造協会等への査読論文投稿を行う。 ・県内外等で研究成果の発表を行う。 ・地域に貢献する研究活動(調査、講演等)を積極的に行う。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府戦略的イノベーション創造プログラムの大型外部資金を獲得した。 ・国交省新道路技術に関する大型の受託研究を獲得した。 ・ASCE1編、日本鋼構造協会6編の査読論文投稿を行った。 ・地域に貢献する研究活動(調査、講演等)を積極的に行った。 			
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献として土木学会等の活動へ積極的に参画する。 ・社会および地域貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ積極的に参画する。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会、鋼構造協会、腐食防食協会等の活動へ積極的に参画した。 ・地域社会貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ参画した。 ・民間からの技術相談を多数行った。 			
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部入試委員、広報図書委員委員の活動を行う。 ・大学院改革の全学委員の活動を行う。 ・工学部教授会、学科会議、博士後期および前期委員会等の諸運営活動を行う。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部入試WG委員、改組WG、広報図書委員WG委員の活動を行った。 ・大学院改革の全学委員の活動を行った。 ・工学部教授会、学科会議、博士後期・前期委員会等の活動を行った。 			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 春野	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	設計製図の授業では、設計技術の向上だけでなく、創造性も養えるよう、学生と一緒に考えて考える。また、新入生の指導教員として、学生生活をサポートする。			0.50	設計製図の授業では、学生各自で考えてきた案をディスカッションしながら展開させていく手助けができた。その中で建築設計の楽しさや難しさを伝えることができた。新入生の学年担当は、建築学基礎演習や建築基礎情報処理等の初年度教育で役割を果たした。		
研究	0.40	沖縄の戦後復興に貢献した地元建築家の活動について、研究を継続する。			0.30	戦後の地元建築家仲座久雄の研究成果を学会で複数発表した。		
社会貢献	0.10	日本建築学会主催の全国卒業設計展を開催する。			0.10	全国卒業設計展を開催し、学内外から多くの建築学生が来場した。		
管理運営	0.10	委員会の任務を行う。			0.10	ハラスメント相談委員、交通指導委員等の委員会任務を果たした。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		原 久夫	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.50	修士学生及び卒業研究学生指導, 確率及び統計, 土木工学概論, 測量学 I, 土質力学 I 及び演習, 地盤工学, 土木技術者倫理, 土木セミナー, 土質力学特論の講義を実施する。 JABEEプログラム教育委員会における改善WGを担当する。		0.50	修士学生及び卒業研究学生指導, 確率及び統計, 土木工学概論, 測量学 I, 土質力学 I 及び演習, 地盤工学, 土木技術者倫理, 土木セミナー, 土質力学特論の講義を実施した。 JABEEプログラム教育委員会における改善WGを担当した。	
研究	0.45	粘性土の粘弾性を考慮した圧密沈下解析法の適用性に関する研究, 赤土流出防止技術の開発, 砂の安息角に関する実験と解析研究, サンゴ礫混り土の工学的特性値に関する研究, 琉球石灰岩の分布と強度特性に関する研究を実施する。		0.45	粘性土の粘弾性を考慮した圧密沈下解析法の適用性に関する研究, 赤土流出防止技術の開発, 砂の安息角に関する実験と解析研究, サンゴ礫混り土の工学的特性値に関する研究, 琉球石灰岩の分布と強度特性に関する研究を実施した。	
社会 貢献	0.05	沖縄総合事務局入札監視委員, 沖縄総合事務局開発建設部建設コンサルタント業務審査委員, その他委員会委員などの公共性の高い委員会に出席し, 専門知識を社会に還元貢献する。 九州支部沖縄地区沖縄地盤工学研究会会長として活動する。		0.05	沖縄総合事務局入札監視委員, 沖縄総合事務局開発建設部建設コンサルタント業務審査委員, その他委員会委員などの公共性の高い委員会に出席し, 専門知識を社会に還元貢献した。 九州支部沖縄地区沖縄地盤工学研究会会長として活動した。	
管理 運営	0.00	なし		0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		崎原 康平	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	前期の建築構造力学Ⅰ(演習担当)および建築構造力学Ⅲ(演習担当)について、学生の理解が深まるよう講義内容の充実に努める。また、後期の建築材料構造実験では、安全かつ円滑に講義が進められるよう細心の注意を払いながら進めるとともに、理論的・実務的な内容の補足説明等も充実させる。研究室所属学生については、就職・進学に関する情報等を収集し、学生へ周知徹底および適切な指導を行う。			0.20	前期の建築構造力学Ⅰ(演習担当)および建築構造力学Ⅲ(演習担当)について、レポートを充実させ、学生の基礎学力や理解度を深めるよう努めた。また、後期の建築材料構造実験では、安全・安心かつ円滑に講義が進められるよう細心の注意を払いながら進めるとともに、理論的・実務的な内容の補足説明等も充実させた。研究室所属学生については、就職・進学に関する情報等を収集し、学生へ周知徹底および適切な指導を行った。		
研究	0.40	昨年度採択された科研費助成の研究課題を推進する。得られた研究成果は、国内外の学会で積極的に論文投稿および発表を行う。レオロジー関連の研究も同様に、研究成果をまとめ論文投稿・学会発表を行う。			0.40	昨年度採択された科研費助成の研究課題を推進した。得られた研究は、2016年9月号の日本建築学会構造系論文集(題目:「飛来塩分輸送状況予測システムの構築に関する基礎的研究」)に掲載された。レオロジー関連研究は、2016年11月に開催された国際会議であるAFC2016(ベトナム)にて、発表を行った。		
社会貢献	0.20	2016年7月に開催される日本コンクリート工学会主催のコンクリート工学年次大会2016(博多)において、生コンセミナー部会委員として参画しており、大学間のみならず民間企業とも連携を図ることで、より社会へ還元できる最新のコンクリート工学関連情報の発信できるよう努める			0.30	コンクリート工学年次大会2016(博多)にて生コンセミナー部会委員として参画し、最新のコンクリート工学関連情報の発信できるよう努めた。また、戦略的イノベーション創造プログラムで採択された「亜熱帯島嶼に適した橋梁維持管理技術開発と診断ドクター育成」研究メンバーとして産学連携技術講習会を開催した。		
管理運営	0.10	自己評価・年度計画委員および選挙管理委員として、大学における円滑な運営に寄与するとともに、その他学部・学科内の管理業務等を積極的に行う。			0.10	自己評価・年度計画委員および選挙管理委員として、大学における円滑な運営に寄与するとともに、その他学部・学科内の管理業務等を積極的に行った。また、AO入試、私費外国人入試の各委員も併任した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	山田 義智		所 属	工学部 環境建設工学科		職 名	教授		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・学生支援	0.40	学部で「建築材料」、「環境材料学」、「線形代数学」の必修科目や、「数理情報処理」、「構造力学III」の選択科目を学生の理解が進むよう講義する。大学院では「建築材料学特論」で材料学の重要性を理解させる。卒論・修論では、建築材料学の研究の楽しさと建築において果たす役割を教える。修論生には学会発表や査読論文投稿を行うよう指導する。研究室配属の学部学生(5名)および大学院生(4名)の進路について、十分に把握・指導して有意義な学生生活を送れるよう助力する。		0.40	学部講義アンケート結果は全て良好であった。大学院講義は、アルシリカ反応の生じた橋梁の見学も実施した。卒論の学生および修士の学生にも目標通りの教育ができた。大学院生4名全員に国内学会での発表指導ができた。また、現在指導する大学院生が筆頭で査読付き論文を投稿し掲載された。2名の修士学生を国際シンポジウムで発表させて、その内1名が発表賞を受賞した。1名の博士課程の学生を国際会議で発表させた。				
研究	0.30	フレッシュコンクリートのレオロジーに関する研究およびフライアッシュを用いた補修塗材の開発研究を企業と共同で行うことを目標とする。さらに、コンクリート工学会で進めているコンクリート施工のPDCAサイクル委員会においては、幹事長としてシミュレーション研究の統括と講演をおこなう。また、飛来塩分の輸送量推定手法を用いた塩害環境評価法の確立、塩ビサイディング材のRC構造物の保護効果についても着実に研究を進捗させる。これらの研究成果として査読付論文を投稿するほか、外部資金の獲得を目指す。		0.35	飛来塩分の研究に関しては査読付論文が1編が掲載された。コンクリートのレオロジーに関しては査読付き論文2編が掲載され、現在2編を査読付き論文として投稿中である(合計で採択査読論文3編、査読論文投稿中2編)。口頭発表論文は全14編(国内12編、外国2編)である。他にも学会の報告書を幹事として執筆し、その内容に関する講演を行った。外部資金もフライアッシュやレオロジーに関して獲得した。				
社会貢献	0.15	日本建築学会材料施工本委員会(建築学会では他委員2件あり)や土木学会・コンクリート工学会の委員会活動や、擁壁製造委員、その他の県内の各委員としてその責務をはたす。また、日本建築学会九州支部の材料施工委員会委員長としての責務もはたす。		0.15	建築学会材料施工本委員会(建築学会では他委員1件あり)や建築学会九州支部材料・施工委員会委員長、土木学会および日本コンクリート工学会の委員会等の学会活動や、全国宅地擁壁技術協会調査委員、沖縄県生コンクリート品質管理監査会副委員長、その他の県内の各種委員会に参加して活動を行い、その責務を果たした。				
管理運営	0.15	全学(ハラスメント委員会)および工学部(社会連携委員会)の各種委員を務める。教授会・専攻主任会議や学科会議・コース会議には、積極的に出席して組織運営の一助とする。		0.10	工学部および全学の各種委員会には、出張等で不在でない限り積極的に出席した。教授会や学科会議・コース会議にも不在でない限り積極的に参加した。				
	0.00			0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小倉 暢之	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	学部及び大学院における建築計画学関連諸科目を担当し、学習意欲の向上を図る。演習では積極的にTAを活用し、きめ細かな指導体制を形成し、学生の意見聴取及び学習相談を行う。研究室学生院生の指導教員として進路に関する相談指導を行う。			0.30	学部及び大学院における学生授業評価ではTAの積極的活用により良好な評価を得る事ができた。また、ゼミでは学部生5名、院生前期課程5名、後期課程1名の研究指導を行った。さらに海外協定校との学生交流をタイ・キングモンクット工科大学建築学部の学生2名を2ヶ月間研修生として受入れ本学学生との共同学修の場を設けた。また、学部学生の一人は日本建築学会九州支部長賞を受賞した。		
研究	0.40	科研費(海外B)「東南アジア都市低所得者層のための住民目線に立つ身の丈住宅供給」の研究代表者として研究組織の統括と研究に取り組み、共同研究者並びに大学院生等と共に研究した成果を国内外の論文に投稿する。また、国際交流協定締結校との研究交流を推進する。			0.40	科研遂行のため、タイ国の協定校コンケン大学及びキングモンクット工科大学ラカバン校の建築学部教官と研究打合せを行い、現地調査を実施すると共に成果の一部を学会で発表した。さらに本年度は科研費(C)「復帰前沖縄近代建築における地域完結的展開の特質」を新たに獲得した。		
社会貢献	0.15	日本建築学会沖縄支所長、沖縄建築士会理事、那覇市建築審査会会長等の各種委員として県内建築関係者及び市民に活動を通して社会に貢献する。			0.15	日本建築学会沖縄支所長、那覇市建築審査会会長の他、建築士会沖縄支部常任理事として各種公共建築設計競技の審査員等を担当する等、広く社会に貢献した。		
管理運営	0.10	研究推進委員及び建築コース1年次指導を担当し、組織の円滑な運営に寄与する。また、留学生の受け入れに取り組み国際化を推進する。			0.15	学科及び建築コースの教員として研究推進委員及び建築コース1年次指導を担当し、組織の円滑な運営に寄与した。また、キングモンクット工科大学ラカバン校とのダブルディグリー締結に向け相手校との協議を推進した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	小野 尋子		所 属	工学部 環境建設工学科	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	3年次指導教員として、現業実習の準備・送り出し、そして就職活動に向けての指導を行う。都市デザイン演習・都市計画特論・Advanced Urban Planningの講義内容を更新する。		0.20	3年次指導教員として、現業実習に延べ27名を送り出し、サポート及び調整を行った。県外で活動している学生がweb上でも確認できるような就職活動支援としてパスワード付きのブログを立ち上げ、各企業からの情報を適宜アップロードしている。企業からの求人情報は非常に多く、それをこまめに学生向けにWebアップロードしているのは、当学年の工夫である。
研究	0.40	科研最終年度であるため、とりまとめを行う。査読付き学会論文に投稿する。また、今年度、大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所へのIS申請を行っており、当該申請の共同研究メンバー(代表:理学部藤田教授)		0.40	本年度は、査読付き学会論文(AA論文)に2本採択された。学生の論文では、九州地区の「最優秀賞」を2つ学会からいただいた。そのうちの1つの都市住宅学会は、ここ数年来、「該当なし」と空席であった最優秀論文賞であり、それを当研究室が受賞した。また理学部・教育学部との学部横断型共同研究である、戦略的重点プロジェクトにも採択された。全国コンペでも2件の受賞「優秀賞」、「審査員賞」を受賞し、浦添市からは「優良賞」を受賞した。
社会 貢献	0.10	学外の学識委員会への協力を行う。大学における研究成果について、地域で研究報告会を開催する等、社会還元を行う。		0.10	沖縄県の21世紀ビジョン後期計画策定に向けた検討委員会をはじめ、地域連携型の大学を目指す本学のビジョンに沿った形で、地域貢献を果たした。また、普天間飛行場をはじめとする政策課題については、行政の設置する委員会の他にも、地主会や農家・市民など複数の組織や団体とそれぞれ複数回勉強会を開催した。
管理 運営	0.30	全学の委員である教育委員、URGCC委員となった。学内でも業務量が多くて有名な委員会であり、大学の教育改善を目指して業務を遂行する。また、来年度からの改組に向けてカリキュラムの再編やディプロマポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーなどの見直しも求められており、負担が大きい。		0.30	改組後のカリキュラム作成を含め、例年に比べても検討内容が多く、結果、業務時間内における負担が多かった。その教育委員会で、責務を果たすよう努めた。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松原仁	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	最新の研究成果を積極的に取り入れた講義を実施することで、学問の多様性や奥深さを認識・習得させる。特に、実験系科目については、最新の研究成果を取り入れた教育を実践する。同時に、工学系における現代社会の動向を鑑み、学部生の大学院進学へ向けた取り組みを積極的に行う。		0.40	地盤環境工学、計算力学、地震工学に関する最新の知見を盛り込んだ講義やセミナーを実施した。結果として、学部生が国内の学術会議において学術発表賞を受賞することができた。また、博士前期課程の学生を1名、博士後期課程の学生を1名排出することができた。学部生に関しては、3名が大手建設業に就職し、6名が大学院進学となった。	
研究	0.35	科学研究費補助金および企業からの研究助成金をベースにして、琉球石灰岩や島尻層群泥岩の風化研究を進める。同時に、国内外の研究組織との研究交流を展開する。研究成果は国内外の学術誌や学術講演会にて積極的に発表する。また、その他の外部資金獲得へ向けて積極的に取り組み、学内研究プロジェクトへも積極的に応募する。		0.35	科学研究費補助金(継続)に加え、外部資金1件、企業との共同研究2件を締結し、学内においても戦略的プロジェクト研究にPIとして採択され、部局横断研究(工学部、理学部、農学部、亜熱帯生物圏研究センター、島嶼防災研究センター)を進めることができた。これらの成果は、国内外のジャーナル、学術会議にて発表している。	
社会貢献	0.15	県内外の大学・企業との連携を密にし、地域社会の発展と人材送出に資する。		0.20	沖縄県内の法面崩壊の危険性のある箇所について共同研究を進め、島尻層群泥岩の地盤風化を定量化することができた。同時に、地盤修復技術に関して、県外企業との共同研究を進めることができた。人材排出に関しては、大手建設業に3、県内公務員に1の内定を決めた(その他の学生は大学院進学)。	
管理運営	0.15	全学学士教育プログラム委員会委員の一人として、URGCCシステムを試行する(特に、学部改組関連のアップデートを確実にする)。また、学部においては、研究推進委員会委員の一人とし、学際的かつ高度な研究活動の推進に資する。		0.05	工学部改組に伴い、社会基盤デザインコースのURGCCに関する方向性をまとめることができた。また、学部においては研究推進委員会として活動し、地盤環境研究室のみで6名の大学院進学者を出すことができた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		清水 肇	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	専門教育、共通教育の授業を、学生との意見交換方法などを改善し効果的に実施する。 3年次指導教員として、学生のメンタルヘルス、進路相談等についての丁寧な支援を行う。		0.30	専門科目、共通教育科目において、毎回の質問・感想シートを用いて学生とのコミュニケーションを行い丁寧な指導を行った。提出物をPDF化して映写しながら授業を行う方式により、課題の指導方法を改善した。 3年次指導教員として、年間を通じて学生の相談およびトラブル等への対処を丁寧に行った。	
研究	0.30	生活空間連研究を進め、学会および学会誌にて発表を行う。 科学研究費(基盤(C))の3年間の研究期間の最終年度であり、現地調査による一定の成果を得るとともに、2年度分までの成果を査読付き論文として発表する。		0.25	学童保育施設関連の研究の成果を、建築学会論文集(4月)に掲載することができた。科学研究費(基盤(C))の最終年度の研究を行ったが、研究費の効率的執行と新しい調査企画の可能性を得て、さらに1年度の延長を行うこととした。 北海道大学および北方総合建築研究所との研究交流企画を実施した。	
社会 貢献	0.15	沖縄県、那覇市、浦添市、糸満市、八重瀬町、読谷村他の自治体委員の職を通じて地域のまちづくりに貢献する。 学童保育施設整備に関わる施策への関与により沖縄県内の学童保育の改善に貢献する。 公開セミナー等を積極的に実施する。		0.15	沖縄県および県内市町村の多数の委員会の委員、委員長を務めた。とくに県のMICE関連のまちづくりビジョン策定、住生活基本計画の見直し、読谷村他の景観計画実施関連業務、都市計画関連業務、都市マスタープラン関連業務等にご貢献した。 学童保育関連の現地調査と実践サポート活動を行った。 「沖縄大工 親泊次郎展」の実施など、学外での展示や生涯学習関連の仕事も多く行った。	
管理 運営	0.20	工学部将来計画委員、入試委員として工学部の改組後の教育運営等についての業務にご貢献する。 全学の障がい学生支援室委員、ジェンダー協働推進室委員他の委員会を通じて、大学の管理運営にご貢献する。		0.30	工学部入試委員として工学部の新入試の実施方式、実施体制と内容、コースにおける新体制の入試の実際の運営について、多くの業務を実施し、新しい学科・コースの入学者選抜の最初の実施にご貢献した。 全学の障がい学生支援室運営委員、ジェンダー協働推進室委員他、全学の委員会の多数の業務も実施した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中田 幸造	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	できるだけわかりやすく興味を持てるように講義する。講義時間外も随時質問を受け付け、学生の理解が進むように努力する。 4年次指導教員としての務めをしっかりと果たす。 勉強意欲や進学意欲が高まるように研究室4年次の質問に分かりやすく答える努力をする。		0.40	理解しやすい講義に努めた。4年次指導教員としての務めを果たした。研究室4年次の質問には随時対応した。以上より、目標を達成できたと思う。	
研究	0.30	査読付き論文を投稿する。外部資金の獲得に努める。		0.30	日本建築学会九州支部論文に投稿した(3月発表予定)。1月にコンクリート年次論文集に投稿した(査読中)。日本建築学会構造系論文集に投稿した(査読中)。9月に国際会議(Consec2016, 開催地:イタリア)で研究発表を行った。国際会議(SMAR2017)のアブストラクトが採択され、論文を投稿する予定である(締め切り3月31日)。科研費(基盤研究C)が採択された。以上より、目標は達成できたと思う。	
社会 貢献	0.20	沖縄建築士事務所協会耐震診断判定委員会の耐震判定委員, 総合事務局総合評価委員として責務を果たす。また、総合資格学院の1級建築士講座学科IV講師として、学外においてもわかりやすい講義に努める。		0.20	学外においても、責務を果たし、また、わかりやすい講義に努めた。以上より目標を達成できたと思う。	
管理 運営	0.10	建築コース主任, 広報委員としての務めをしっかりと果たす。		0.10	建築コース主任, 広報委員としての責務を果たした。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲座 栄三	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	JABEEプログラムに基づいた教育を実施する。さらに、指導教員としての学生支援及び研究室の学生に対する支援を行う。			0.35	JABEEプログラムに基づいた教育を行った。さらに、指導教員として、学生支援及び研究室の学生に対する支援を行った。授業ではすべての担当科目について、学生から高い評価を得た。		
研究	0.35	環境適合型の護岸開発及び津波防災に関する研究を推進する。企業等との共同研究を進める。			0.35	環境適合型の護岸開発及び津波防災に関する研究を行った。企業等との共同研究を進めた。成果は、卒業論文及び博士論文として纏められた。さらに、論文等にて公表予定である。		
社会貢献	0.15	防災及び海岸環境整備に対し、協力及び開発技術の提供を行う。			0.15	防災及び海岸環境整備に対し、協力及び開発技術の提供を、各種委員会、沖縄科学防災環境学会等を通じて行った。		
管理運営	0.15	図書館長として図書館運営に努める。また、JABEE教育プログラム委員長としてのコースの教育プログラム推進に努める。			0.15	図書館長として図書館運営に当たった。また、JABEE教育プログラム委員長としてのコースの教育プログラム推進に当たった。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲松 亮	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	担当する1年次基礎科目の内容が、特に卒論作成時に重要となることを認識・意識できるように講義方法を工夫する。これまで復習や課題など講義時間外学習の進め方については学生自身に任せていたが、今年度は進捗状況を適時確認し、問題があれば方向修正を行う。本年度2年次の指導教員として2年次学生がカリキュラムに沿った学習を行えるように指導・サポートする。			0.30	年度目標設定の通りに、担当講義について各学生の理解度や進捗状況を確認しながら進める方法を試みた。しかし課題の提出率が悪い、また提出物の完成度の低いなど、理解度や進捗状況は良いとは判断できず、課題の再提出を何度も求めることになった。今回の方法を用いる場合、これまでの講義内容では詰め込みすぎとなることも判明した。今回の結果をもとに次年度の授業計画を検討していく予定。本年度2年次の指導教員として2年次学生の学習をサポートした。		
研究	0.30	現在行っている研究開発テーマについて、報告可能な段階まで研究を進める。既存の研究の研究データを成果としてまとめる。専門知識、また関連する知識の向上に努める。			0.30	機器の故障や経年劣化など不具合が連続的に生じた。そのため修理や機器の更新、データの見直し作業などに時間が取られてしまった。今年度の目標は次年度に持ち越す予定。既存の研究データについては現在論文を執筆中。専門知識、また関連する知識の向上に努めた。		
社会 貢献	0.15	建築士受験に向けた対策講座の講師を務める。環境工学関連のシンポジウムの計画・実施に協力する。			0.15	建築士受験に向けた対策講座の講師として数回講義を行った。5月までに後2～3回講義を行う予定。第6回世界のウチナーンチュ大会の連携事業として開催された環境エネルギーシンポジウムの実行委員会の委員として実行・運営に参加。		
管理 運営	0.25	オープンキャンパス委員として、学外者へのコースの広報に努める。改組情報も含めて学科Webページの更新を検討・実施する。			0.25	オープンキャンパス委員としてオープンキャンパスの準備運営を行い、改組後の建築学コースの広報に務めた。学科Webページは現在鋭意作成中であり、公開可能な状態まで完成している。部分的な修正を行い近日中に公開する予定。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		堤 純一郎	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	一般の講義に、より多くの最新情報とインタラクティブな進行を導入する。大学院の講義はすべて英語で実施する。指導する卒論生及び大学院生には明確なロードマップを示して研究指導する。大学院生を含めて進路指導も積極的に行い、特に学士課程から大学院への進学者を確保する。			0.20	ほぼ目標通りに実行できた。インタラクティブな講義に関しては、こちらからの投げかけに対して、学生からの反応が十分ではなく、やや独り相撲の感が残った。ひとつだけ実現できなかったのは、学部課程から大学院へ進学する学生を確保できなかったことであるが、これは学生本人の意思なので、どうしようもない。		
研究	0.25	現在までに進めてきた多面的な研究をめとめる方向で整理を開始する。未整理の研究成果等を2編以上の研究論文としてまとめる。現在進行中の木造建築研究会、スマートウェルネスハウス沖縄協議会、アジア太平洋島嶼環境研究者ネットワークをさらに充実させる。			0.28	概ね目標を達成できたが、幾つかの点でまだ不満な部分が残る。原著論文としては2編を仕上げたが、1編は不採用となり、やや不満が残る結果ではあった。また、これから審査に入る論文が2編あり、その成否が気になるが、一応、研究成果を形にすることができた。		
社会 貢献	0.30	今年度の社会貢献は、共同研究や受託研究の分野で2件程度の実施を目標とする。また、国、県、市町村等の検討委員会や審議会等については、本務に支障のない範囲で、現在、就任している委員会等の継続を含めて、できる限り協力する。			0.32	国、県、市町村等からの依頼に対して、多数の検討委員会や審議会を引き受け、その運営や議事進行に貢献できた。詳細な内容の検討まで含めて、非常に緻密な対応ができ、目標を超える活動ができた。		
管理 運営	0.20	学内の管理運営に関しては、現在、エコロジカルキャンパス推進委員会だけを担当しているが、環境認証の独自システムをさらに発展させ、認証システムのマニュアル化を図り、より明確なエコロジカルキャンパスの実現を目指す。			0.20	学内の管理運営に関しては、幸か不幸か、役職がほとんどなかったため、多くの貢献をすることはできなかったが、唯一の責任ある立場にあるエコロジカルキャンパス推進委員会の企画部会主査としての職務は、目標の通り実施できた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		渡嘉敷 健	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	学部の授業、建築設備計画において、昨年度も実施して来た建築設備等の施設見学を行い授業の内容を具体化して学生の理解力を高めたい。建築環境工学演習においても既設のホールの残響時間の測定実験を行いこれまでに得られた研究成果を生かした具体的な実験実習を行っていきたい。大学院の環境騒音特論では研究の環境騒音の調査を授業に取り入れたい。		0.25	学部の授業、建築設備計画において施設見学を行った。法文学部人文社会総合研究棟の建築設備全般について施設部の担当者から説明を聞いて学生の質疑にも対応して頂いた。沖縄電力牧港火力発電所の施設見学では発電の系統の説明をして頂いた。北谷浄水場と海水淡水化センターの見学を行った。さらに、宜野湾市民会館の大ホールの見学と残響時間測定を行い響きを感じてもらった。大学院の環境騒音特論では大学構内の環境騒音の調査を授業に取り入れた。		
研究	0.30	音響材料開発及び遮音構法として産学連携としての技術提供を行い社会貢献を行いたい、さらに外部資金の獲得につなげられるように努力したい。現在行っている航空機騒音の主観評価調査を進めさらにデータ収集を行い研究を発展させて行きたい。国際会議、インターノイズに論文を提出し、発表を行いたい。学会活動として日本音響学科九州支部評議員2年間の経験を生かして学会活動に貢献したい。		0.30	音響材料開発及び遮音構法として産学連携としてコンクリートブロックの遮音性能を向上させた防水ブロックの遮音性能測定を行い報告書を提出した。沖縄の産業まつりにおいて沖縄観光における癒しの音環境保全改善方法研究提案を行った。国際会議インターノイズにおいて、沖縄県内の米軍航空機の低周波音調査データの研究発表を行った。		
社会貢献	0.25	研究調査で行っている学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて実施される音響調査に専門家としての技術支援を行いたい。学生実験で行っている既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行いたい。行政の委員会に貢献した。沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行う。		0.25	学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて各自治体からの音響調査に専門家としての技術支援を行った。沖縄県の辺野古取り消し確認訴訟の陳述意見書を提出した。県内既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行った。おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行った。4月の科学技術週間で小中高生に対して残響室無響室の見学と音の実験を行った。		
管理運営	0.15	工学部と沖縄工業高専との研究を推進する委員会活動を昨年度行い研究交流を実施した、さらに今年度も継続して研究交流に貢献したい。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に協力して行きたい。		0.15	工学部と沖縄工業高専との研究を推進する委員会活動が6年目で今回も私の研究室の学生5名の研究交流を実施した。大学のオープンキャンパスにおいて残響室無響室内で実験を体験してもらった。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に建築のコース会議で議論している状況である。今後具体化していく中で協力して行きたい。		
進路指導	0.05	これまでの就職担当教員の経験を活かし、また授業等では施設見学を通して得られる経験を学生の就職支援に役立てて行けるように取り組みたい。学科同窓会の協力を得て就職説明会を開催できるように努力したい。例年実施している高校訪問の業務をサポートしたい。		0.05	学部学生及び大学院生の就職活動のことも考え、講義の中で、専門性を生かした就職状況等のビデを等の説明を行い就職への啓発を行った。学生からの評判も良く、学生達の就職活動に生かしてもらいたいと考えている。学科同窓会の起業者の体験セミナーのDVDを就職説明に活用した。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		入江 徹	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	建築計画系科目、建築設計製図科目、ゼミにおいて、学生に国内外の建築デザインに関する情報を提供する。		0.30	建築計画系科目、建築設計製図科目の中で、学生に国内外の建築に関する最新情報を提供しつつ講義を行った。その成果発表として、「合同設計発表会」を開催した。
研究	0.30	建築における最先端デザインの探求を実験的に行っていく。		0.30	現代建築の視察等を行い、建築における最先端デザインの探求に務めた。
社会 貢献	0.15	学外委員会などを通して社会に貢献する。		0.15	日本建築学会九州支部沖縄支所常任幹事として貢献した。また、学外委員会委員として貢献した。
管理 運営	0.15	施設・環境委員として業務に従事する。		0.15	施設・環境委員会の委員長として業務に従事した。
進路 指導	0.10	学生が卒業後の進路を検討できるように情報を提供し、指導を行う。		0.10	学生の卒業後の進路相談に対し、情報を提供したり、準備しておくことなどについて指導を行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		入部 綱清	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行う。		0.30	JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行うことができた。	
研究	0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行う。		0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行うことができた。	
社会 貢献	0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努める。		0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努めた。	
管理 運営	0.10	社会連携委員会の委員として、委員会の運営に努める。		0.10	社会連携委員委員会の委員として、委員会の運営に努めた。	
進路 指導	0.10	学生の進路相談や就職のサポートを行う。		0.10	学生の進路相談や就職のサポートを行った。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		有住 康則	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	学部科目:「構造力学I及び演習」、「線形代数学A」、「橋設計論」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用する。各科目について授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会で検討し、授業改善に努める。FD活動に積極的に参加する。大学院の講義を担当し、理工学研究科学生の研究指導を行う。2年次指導教員として、学生の修学指導、及び他学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組む。		0.30	学部科目:「構造力学I及び演習」、「橋設計論」、「線形代数学A」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準に基づき講義を行った。講義内容等については、PDCAシステムにより授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会等で検討を行った。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用した。大学院では、「橋梁工学特論」を担当した。また、学部2年次指導教員として、学生の修学指導を行い、更に、他学生の4年次学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組んだ。	
研究	0.25	科学研究補助金基盤研究(C)「鉛直・水平補剛材に重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐荷力評価と機能回復技術」を中心に研究開発を進め、その成果は土木学会論文集、鋼構造工学論文集等に投稿する。学会活動では土木学会「鋼構造委員会」、「アルミニウム橋研究会」に委員として積極的に参加する。		0.25	科学研究補助金基盤研究(C)「鉛直・水平補剛材に重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐荷力評価と機能回復技術」を中心に研究開発を進めた。また、内閣府・JST・戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)に「亜熱帯島嶼に適した橋梁維持管理技術の実装と診断ドクターの育成」(H28~H30、1800万円/年)が採択され、関連活動を行った。国内外の学術論文集に4編採択された。土木学会年次講演会に論文を3編発表(共著者)した。土木学会「鋼構造委員会」に委員として参加した。	
社会 貢献	0.05	国土交通省「社会資本整備審議会専門委員」、沖縄総合事務局「景観委員会」、「総合評価審査委員会」、沖縄県「沖縄鉄軌道技術検討委員会」、那覇市「都市計画審議会」、「那覇市上下水道事業審議会」等に委員(会長を含む)として参加し、専門的立場で意見を述べ社会に貢献する。		0.05	国土交通省「社会資本整備審議会道路分科会沖縄地方小委員」、那覇市「那覇市都市計画審議会」と「那覇市上下水道事業審議会」、那覇市「那覇市入札監視委員会」に委員長(会長)として、また、沖縄総合事務局「総合評価審査委員会」、沖縄県「沖縄県振興審議会」等に委員として参加し、専門的立場で意見を述べ社会貢献活動を行った。	
管理 運営	0.40	工学部長として、教授会、代議会を主幹し、構成員の意見を反映し、公正な学部運営に努める。特に、学部の教育組織改革(改組)を推進する。4月に大学設置・学校法人審議会へ事前伺いの書類を提出する。全学の企画経営戦略会議、教育研究評議会に出席し、学部の意見を述べ、関連資料については速やかに構成員に公表する。環境建設工学科土木コースJABEE教育委員会等の委員会活動に努める。		0.40	工学部長として、教授会、代議会、前期委員会を主幹し、構成員の意見を反映し、公正な学部運営に努めた。特に、工学部改組に取り組み、大学設置・学校法人審議会において事前伺い(1学科7コース制の改組案)が承認された。更に、新組織移行に伴い、新組織の整備及び規則の改定に取り組んだ。また、全学の企画経営戦略会議、教育研究評議会、全学人事委員会に出席し、学部の意見を述べ、会議の内容については速やかに構成員に公表した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		